

## 2019 年度教育活動活性化提案事業

### 学内委員会活動を通じた「私のリーダーシップ」言語化プロジェクト

プロジェクトメンバー：体験学習専門部会（和栗、片桐、城、チョウドリ、豊貞）  
学生支援班（安部、福田）、教務企画・入試班（山口）、今井

### 報告書

#### 事業の背景・目的（2018 年度教育活動活性化提案事業実施計画書／応募書類より）

国際文理学部はその教育の特色のひとつとして「国内外での充実した体験学習」を掲げている。これまで、「体験学習」は新学部構想・設置作業時のカリキュラム検討以来、「正課」が前提とされてきたものの、本学では、正課外でも体験を通して学ぶ機会が多様に提供されている。「体験的に学ぶ」の全学的展開を、福岡女子大学の教育の特色としてより効果的に打ち出していくためにも、既存の豊かな機会をリソースとしつつ、それらの質を向上させていくことが必要である。

そのような正課外での機会のひとつが、教職員から構成される学内委員会への学生の参画である。2015 年度から始められた学内委員会への学生の参画は、第 3 次中期計画の中では実施事項 4「女性リーダー育成教育の推進」において「リーダーシップ向上を目的とした学内委員会への学生の参画推進」と明確に位置付けられた。①その参画推進を実体化・充実化させるため、そして、②「体験的に学ぶ」福岡女子大学の取り組みとして積極的に発信していくために、本プロジェクトを申請する。

#### 事業の内容（2018 年度教育活動活性化提案事業実施計画書／応募書類より）

事業では、学生たちが、委員会活動にあたって目的意識を持ちながら、活動を通じて自己の成長や課題について認識を深める支援を試験的にプログラム化・提供すると共に、そのプロセスやプログラムの検証・改善を図る。同時に、通年で広報誌や大学ホームページを通じた活動発信を行うと共に、年度末に「私のリーダーシップ」をテーマとしたプロモーション動画（2～3 分を想定）を作成、進学相談会等でも使える広報素材として、また、翌年度の委員募集素材として活用する。なお、今年度の試行をもとに、来年度以降の募集・参画プロセスの構築および委員会参画を通じたリーダーシップ向上プログラムの企画を行う。

なお、本事業で申請する学生の学内委員会参画促進のための仕組みづくりおよび支援は、既に着手しており、今後も続ける予定である★。一連の取組への学内認知度向上、関係部署との協力体制構築と力強い推進、取組の積極的な発信、より充実したプログラム化を図るために、本事業に応募する。（★応募プロセスの整理、応募案内作成、エントリーシートの配布と回収、各委員会・部会長と候補学生の面談、委嘱状交付式およびキックオフセッションの実施と発信）

#### 審査結果総評（2018 年度教育活動活性化提案事業の審査結果について[通知]より）

学生の学内委員会活動を活性化させるという点では一定の評価はできます。

但し、現時点では学内委員会への学生の参画者数や活動内容には未確定な部分が多いことから、まず本年度は採択学内で活動内容の充実に向けた具体的な取り組みをお願いします。

採択（応募額 813（千円）→決定額 200（千円））

## 活動内容

(教職員から構成される) 学内委員会の学生委員に対しては、全体・個別ミーティングを通しての支援を行った。同時に、学内の「委員会」活動全般の価値を高めるために、自治会の委員会活動(入学時、全学生が何らかの委員会に所属)についても、自治会オリエンテーション委員会を中心に支援を行った。

### 【学内委員会の学生委員への支援】

学生委員の目的意識およびリーダーシップ観、成長・課題観の醸成のために、計4回の全体ミーティングを開催した。

- 5/21 委任式&キックオフセッション
- 7/10 目標設定・確認セッション
- 10/23 中間ふりかえりセッション
- 1/15 年度総括セッション

同時に、10/23の中間ふりかえりセッションで、「何かやりたいけれどうまく動いていない」課題意識を見せてくれた学生委員2名、また、「企画したけれど、その先に進めていない」ことを共有してくれた学生委員2名については、個別に複数回のミーティングを行い、アクションを起こすことを支援した。そのうち、学術情報センター図書部門の学生委員については、図書館に設置してあるプリンター仕様説明の英語バージョンを、スペルマン大学からの留学生の協力も仰ぎながら完成させることができた。

### 【オリエンテーション委員会への支援】

採択時の総評に「学内委員会への学生の参画者数や活動内容には未確定な部分が多い」とあるように、2015年に学生委員の制度ができてから過去3年間、学内委員会への学生の参画は、「未確定」なまま運用されてきたことも受け、中長期的に学生委員の制度を充実させ、学生委員の参画を実体化するために、学生自治会内のオリエンテーション委員会への支援を通年で行った。

これは、在学する学生全てが、新入生オリエンテーション時に、自治会内の何らかの「委員会」の「委員」に「ならなければならない」状況を鑑みてのことである。福岡女子大学50年史や75年史に明らかなように、そもそもは学生たちのイニシアティブによって始まった新入生オリエンテーションや自治会内の委員会活動が、少なくともこの10年ほどは当初の意図や目的意識とは程遠いまま、あらかじめ枠が設けられたタスクのひとつとなり、事務局からの指示で「やらされている」状態になっていたことは否めない。

現に、2018年度の新入生オリエンテーション時まで事務局によってオリエンテーション委員会の学生に提供されていた自治会内委員会説明資料(本来なら、毎年、自治会として、委員会活動の棚卸や見直しを経て、学生が作成すべき資料)は、「仕事量」の多寡が強調されたものとなっていた。学科ごとの委員会人数割り当ても事務局によって定められており、事務局がとりまとめるオリエンテーションスケジュールの中、オリエンテーション委員会に担当させる複数のスロット(「サークル紹介」「役員決め(→自治会の委員会決め)」)が決められていた。

オリエンテーション委員は、真面目に取り組むものの、自分たち自身も、「なぜ『自治』

か?」「なぜ学生全員が委員会に所属して活動するのか」「オリエンテーション委員会のビジョンやミッションは何か」を考える機会もないまま、新入生に対しても、機械的に、仕事量をもとにあみだくじやじゃんけんで委員会に所属させることに疑問を持たずやっていた。

そのような中、「教職員から構成される学内委員会」への参加呼びかけがあっても、従来の「やらされている」状態の委員会イメージと重なり、学生たちの十分な興味関心を得られるとは考え難かった。

そこで、まずは学内の「委員会」という言葉が持つ価値を上げる必要があると考え、本プロジェクトに先行する形で2018年3月末、オリエンテーション委員会向けに、オリエンテーションを行った。そのオリエンテーションを受け、2017年度のオリエンテーション委員会副委員長が課題意識を持って動くに至り、2018年度のオリエンテーション委員会の役員構成を改善し、2018年度オリエンテーション委員長となった学生と共に、2019年度新入生向けのオリエンテーションを実施するための、オリエンテーション委員会の組織開発に着手した。

本プロジェクトでは、教職員から構成される学内委員会の学生委員への支援もさることながら、自治会の委員会活動を活性化させようとする上記学生たちとも定期的にミーティングを持ち、企画作り等の支援を通年で行ってきた。

活動する中で、オリエンテーション委員会役員たちから上がってきた「話し方講座」や「企画づくり講座」については外部講師を招聘し、オリエンテーション委員を主な対象としつつ希望者にもオープンにした形で実施した。

2018年9月26日(水)「史上最高のオリエン委員会にするためになにが必要か?」

講師：福岡テンジン大学学長 岩永真一氏

2018年11月22日(水)「話し方講座」

講師：フリーアナウンサー／TNC 土曜 News ファイル CUBE キャスター 角田華子氏

## 成果

### 【アウトプット】

1. 広報誌や大学HPを通じた活動発信実績
2. 「私のリーダーシップ」をテーマとしたプロモーション動画作成。来年度の学生委員募集のみならず、進学相談会等でも使えるものとなっている↓  
<https://youtu.be/FUHQ51o1U2Q>
3. 来年度以降の募集・参画プロセスの構築および委員会参画を通じたリーダーシップ向上プログラムの企画
4. 学生自治会による、学生大会と教職員学生協議会のあり方および自治会内委員会編成の見直し
5. オリエンテーション委員会による、学生によるオリエンテーション内容の改善

## 今後の展開

教育活動活性化事業は単年度で申請したものの、中期計画にある「学内委員会への学生の参画を通じた学生のリーダーシップ向上」は今後5年間継続される。この中期計画における「学生のリーダーシップ向上のため」という目的への理解を深め、活動を具現化して

いくために、2018年度の実践を土台に、2019年度については募集時に全体ミーティングのスケジュールを提示することや、各委員会・部会の委員長とのさらなる意思疎通を図っていく予定である。

1年間の活動をふまえて見えてきたことは、現状の「学生委員」の活動が、以下の3種類に大別されるということである：

- ① 委員会に出席し、発言を求められたら発言する
- ② 事業のサポート、手伝いを行う（無給のものとバイト代、もしくは交通費がつくものも混在。学生からは、単純作業であればアルバイトとすればよいという意見があった）
- ③ 寮教育部会のように、なでしこメイトとしての日常的な活動をもって「委員」として活動する（学術情報センター図書部門は、図書館アルバイトの学生が、アルバイトの一環ではない、つまり「無給」で委員としての活動も行うことになっているが、これについては、2018年度の学生は、見直しの必要性を指摘している。図書館アルバイトの学生が「委員」となることは必然ではない、というものである。当該学生は、実は別委員会・部会の委員になることを希望していた。）

「学生委員」は何をもってして「委員」たるのかを各委員会・部会の判断にゆだねることもできるが、学内には、添付資料「大学が学生に課す・機会提供する諸活動」にある多様な活動が存在するので、全体の整理・体系化と共に「学生委員」としての特色を打ち出していくことも必要になると考えられる。例えば、②については、「学内インターンシップ」的なものとして、体験学習の全学必修化においては学内リソースになり得るだろう。また、③にある寮教育部会では、日常の活動ベースがあるなでしこメイトが委員になり、委員としても効果的に活動していることを考えると、自治会の各委員会から、関係する学内委員会へ参画を求めていくという方法もあり得るといえるのではないか。それによって、福岡女子大学の自治会の新しい姿（学生が勝手に自由にやっている、から、よりよい大学とするために、学生と教職員が積極的に協働する）も描けよう。

「教職員から構成される学内委員会への学生委員の参画」にとどまるのではなく、広く大学内での学生教職協働の機会を俯瞰し、整理、体系化を活動の実体化とともに進めることで、学生にも、学内外にも、「学生が教職員とともに大学づくりにかかわり、リーダーシップを発揮する福女大」のブランド発信、実体化にもつなげるため、2019年度も関係各所との対話や議論をふまえ、活動を続けたいと考えている。

なお、2019年度の全体ミーティングにかかる予算は、学生支援班から学生の研修費として茶菓、講師交通費と謝金が計上されている。

## 添付資料

1. 教職員から構成される学内委員会の学生委員向け全体ミーティング資料
  - ① Why 「学内委員会への学生の参画？」(5/21/2018)
  - ② 目標設定セッション (7/10/2018)
  - ③ 中間ふりかえりセッション (10/23/2018)
  - ④ 年度末ふりかえりセッション (1/15/2019)
2. オリエンテーション委員会向けオリエンテーション資料
3. 大学が学生に課す・機会提供する諸活動図